

# 書道 I

書道 I	単位数	2 単位
	学科・学年・学級	○○○○科 第○○学年 ○○組

## 1 学習の目標

学習の目標	<p>書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書之美を味わい捉えたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>
使用教科書・副教材等	東京書籍「書道 I」

## 2 学習計画

### (1) 年間指導計画案

月	分野	学習内容 (教科書の構成)	教科書頁	配 当 時 数	学習活動例	学習指導要領の 内容
四月	書 写 か ら 書 道 へ	書之美を楽しむ 書道史地図	口絵・3	適 宜		B(1)ア(7)、イ(4)
		書写で学んできたこと 書道で学ぶこと	4-7	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校書写で学習したことの確認として、楷書と楷書に調和する仮名について学習する。</li> <li>・中学校書写で学習したことの確認として、行書と行書に調和する仮名について学習する。</li> <li>・中学校書写で学習したことの確認として、配列の基本について確認する。</li> <li>・高等学校書道で学習することについて、確認する。</li> <li>・臨書の意味や方法を理解する。</li> </ul>	A(1)ア(7)(4)、 イ(7)、 ウ(7)(4)
		用具・用材	8-9		<ul style="list-style-type: none"> <li>・書道の学習に必要な用具・用材について理解し、丁寧に扱う態度を養う。</li> </ul>	A(1)イ(7)
		姿勢・執筆法	10-11		<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本の姿勢、執筆法、後かたづけについて、目的に合わせて多様な方法があることを理解する。</li> </ul>	A(1)イ(7)
		漢字の成立と変遷	14-15	適 宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字の成立と変遷について理解する。</li> </ul>	B(1)イ(4)(7)
		拓本	16		<ul style="list-style-type: none"> <li>・拓本の意味や方法を理解し、関連する書道用語について学習する。</li> </ul>	B(1)イ(4)(エ)
	漢 字 の 書	楷書の特徴 表現を比べよう	17-21	14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楷書の用筆、運筆、結構や字形の取り方について理解し、練習する。</li> <li>・「九成宮醴泉銘」と「孔子廟堂碑」を比較し、それぞれの文字から受ける印象について考える。</li> <li>・「九成宮醴泉銘」と「孔子廟堂碑」の特徴を表現する言葉を選び、説明する。</li> </ul>	A(2)ア(7)、 イ(4)、 ウ(7)(4)、 B(1)ア(7)、 イ(7)(4)、 共通事項(1)ア、イ

五月 ～ 九月	漢字の書	楷書	「九成宮醴泉銘」 「孔子廟堂碑」 「雁塔聖教序」 「自書告身」 コラム 唐の四大家 「牛橛造像記」 「鄭羲下碑」 コラム 海を越えてきた仏教と王羲之の書 参考 「隅寺心経」	22-41		<ul style="list-style-type: none"> <li>楷書の古典を臨書する意義について理解する。 ※「人物と時代」なども活用する。</li> <li>楷書の古典を鑑賞し、その美について理解する。</li> <li>楷書の古典の概要を理解し、用筆、運筆、字形の取り方などについて学び、「表現の特徴」を手がかりとして臨書する。 ※「字形と筆順」なども活用する。</li> </ul> 参考 <ul style="list-style-type: none"> <li>楷書小字作品としての写経について理解を深める。</li> </ul>	
		行書	行書の特徴 コラム 王羲之	42-43	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>行書の用筆、運筆、字形の取り方について理解し、練習する。</li> <li>行書の特徴を理解する。</li> </ul>	A(2)ア(7)、 イ(4)、 ウ(7)(4)、
			「蘭亭序(神龍半印本)」 「争坐位文稿」 「風信帖(第一通)」 コラム 三筆から三跡へ	44-62		<ul style="list-style-type: none"> <li>行書の古典を臨書する意義について理解する。 ※「人物と時代」なども活用する。</li> <li>行書の古典を鑑賞し、その美について理解する。</li> <li>行書の古典の概要を理解し、用筆、運筆、字形の取り方などについて学び、「表現の特徴」を手がかりとして臨書する。 ※「字形と筆順」なども活用する。</li> </ul>	B(1)ア(7)、 イ(7)(4)、 共通事項(1)ア、イ
		草書	草書の特徴 「真草千字文」	63-73	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>草書が成立する過程や草書の特徴について理解する。</li> <li>「真草千字文」を鑑賞し、その美について理解する。</li> <li>「真草千字文」の臨書を通して、草書の用筆、運筆、字形の取り方などについて理解する。</li> </ul>	A(2)ア(7)、 イ(4)、 ウ(7)(4)、 B(1)ア(7)、 イ(7)(4)、 共通事項(1)ア、イ
			隷書の特徴 「曹全碑」			<ul style="list-style-type: none"> <li>隷書が成立する過程や隷書の特徴について理解する。</li> <li>「曹全碑」を鑑賞し、その美について理解する。</li> <li>「曹全碑」の臨書を通して、隷書の用筆、運筆、字形の取り方などについて理解する。</li> </ul>	
			篆書の特徴 コラム 始皇帝と文字 「泰山刻石」			<ul style="list-style-type: none"> <li>篆書が成立する過程や篆書の特徴について理解する。</li> <li>「泰山刻石」を鑑賞し、その美について理解する。</li> <li>「泰山刻石」の臨書を通して、篆書の用筆、運筆、字形の取り方などについて理解する。</li> </ul>	
創作 —古典を生かそう— 鑑賞 —書の美や風趣を味わおう—	74-77	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>創作の手順に従い、漢字の書で学んだ古典の特徴や技法を生かして、創作し、相互評価をする。</li> <li>近現代の作品を鑑賞する。</li> </ul>	A(2)ア(7) (4)、 イ(7) (4)、 ウ(7)(4)、 B(1)ア(7)、 イ(7)(4)、 共通事項(1)ア、イ			
十月 ～ 十二月	仮名の書	仮名の成立	80-81	適宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>仮名の成立と変遷について理解する。</li> </ul>	B(1)イ(4)(ウ)	
		仮名を書く準備 平仮名の単体 変体仮名 連綿	82-89	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>仮名の用具・用材の特徴について理解する。</li> <li>仮名の基本的な線について理解し、練習する。</li> <li>平仮名の単体の特徴について理解し、練習する。</li> <li>変体仮名について理解し、練習する。</li> <li>連綿について理解し、練習する</li> </ul>	A(3)ア(7)、 イ(7) (4)、 ウ(7)(4)、 B(1)ア(7)、 イ(7)(4) (ウ)、 共通事項(1)ア	
		「蓬萊切」 「高野切第三種」 「関戸本古今和歌集」	90-97	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>平安時代の代表的な古筆を臨書する意義について理解する。 ※「人物と時代」なども活用する。</li> <li>古筆を鑑賞し、その美について理解する。</li> <li>古筆の概要を理解し、用筆、運筆、字形の取り方な</li> </ul>	A(3)ア(7)、 イ(4)、 ウ(7)(4) B(1)ア(7)、 イ(7)(4)(エ)、	

				どについて学び、「表現の特徴」を手がかりとして臨書する。	共通事項(1)ア、イ
	全体構成 参考 三色紙の散らし書き	98-101	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>行書きの構成について理解し、練習する。</li> <li>散らし書きの構成について理解し、練習する。</li> <li>三色紙について鑑賞し、それぞれの特徴について理解する。</li> </ul>	A(3)ア(7)(4)、 イ(7)(4)、 ウ(7)(4) B(1)ア(7)、 イ(7)(4)(エ)、 共通事項(1)ア、イ
	創作 —古筆を生かそう— 鑑賞 —書の美や風趣を味わおう— コラム 受け継がれる古筆	102-107	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>創作の手順に従い、仮名の書で学んだ古筆の特徴や技法を生かして、行を構成し、創作し、相互評価をする。</li> <li>近現代の作品を鑑賞する。</li> <li>古筆の形態の違いについて理解する。</li> </ul>	A(3)ア(7)(4)、 イ(7)(4)、 ウ(7)(4) B(1)ア(7)、 イ(7)(4)(エ) 共通事項(1)ア、イ
一月 ～ 三月	漢字仮名交じりの書の変遷	110-111	適宜	漢字仮名交じりの書の変遷について理解する。	B(1)イ(4)
	表現を比べよう 表現の工夫1 線による表現 表現の工夫2 用具・用材による表現 表現の工夫3 古典を生かした表現 表現の工夫4 紙面構成	112-123	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>古典の特徴を生かしたり、用具・用材の使い方や種類を変えたりすることで表現に変化をつけられることを理解する。</li> <li>文字の大きさや配列など、紙面の構成を工夫することで表現に変化をつけられることを理解する。</li> <li>書き方の工夫によってさまざまな表現ができることを理解し、どのような表現をしたいかという意図に合うかどうか考える。</li> </ul>	A(1)ア(7)(4)(ウ)、 イ(7)(4)、 ウ(7)(4) B(1)イ(7) 共通事項(1)ア、イ
	創作 —言葉と書を調和させよう— 鑑賞 —書の美や風趣を味わおう—	124-127	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>創作の手順に従い、表現の工夫で学んだ技法を生かして、意図に基づいて創作し、相互評価をする。</li> <li>近現代の作品を鑑賞する。</li> </ul>	A(1)ア(7)(4)(ウ)、 イ(7)(4)、 ウ(7)(4) B(1)ア(7)、 イ(7)(4)(エ) 共通事項(1)ア、イ
	生活に広げる コラム 著作権	128-134	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>便箋や封筒の宛名、履歴書など、改まった場面で使われる書式について理解し、場面に応じて書く。</li> <li>はがきやカードなど、身近な場面で気持ちを伝えるために書くものについて理解し、自分たちの創意を生かして書く。</li> <li>街中や身近な生活の中で生かされている書を探し、自分たちの生活でどのように生かすことができるかについて考える。</li> <li>著作権について理解する。</li> </ul>	A(1)ア(7)(4)(ウ)、 イ(7)(4)、 ウ(7)(4) B(1)ア(4)、 イ(7) 共通事項(1)ア、イ
	篆刻・刻字 篆刻と落款 創作 —落款印を刻そう— 鑑賞 —篆刻の美や風趣を味わおう— 創作 —好きな言葉を彫ろう—	136-142	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>落款の意味や種類について理解する。</li> <li>篆刻の用具・用材や落款印の手順について理解する。</li> <li>篆刻の作品を鑑賞する。</li> <li>セラミックボードを使った刻字の創作の手順について理解する。</li> </ul>	A(2)ア(7)(4)、 イ(7)(4)、 ウ(7)(4) B(1)ア(7)、 イ(7)(4)(エ) 共通事項(1)ア、イ
資料	書道用語 200 書道史略年表 書を見に行こう 鑑賞の言葉を広げよう	143-159			B(1)イ(4)(エ)

評価	<p>評価は具体的に次のものを対象にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>表現を工夫して表した成果（作品）</li> <li>表現の意図・構想・表現の工夫の取り組みの記録（ワークシート等）</li> </ul>
----	---

<ul style="list-style-type: none"><li>・考えたことや意見交換の記録（ワークシート等）</li><li>・発言（活動の様子）と、その記録（ワークシート等）</li><li>・作品制作への取り組み状況（活動の様子）</li><li>・学習活動への参加状況（出席状況・学習態度・意見発表等）</li></ul> <p>1年間の評定は上記の内容を総合的に判断する。</p>
---